

令和3年度 認知症予防研修会 開催要項

- 1 目的 厚生労働省研究班の調査によると、認知症高齢者数は 2012(平成 24)年時点で約 462 万人、2025(37)年には約 700 万人に達すると見込まれており、そうした中で、介護現場などにおける認知症予防についての理解の促進、援助のより一層の専門性が求められています。
この研修では、認知症の予防から、重度化をくい止めるための2次予防やリハビリテーションの方法等を学び、認知症介護の知識と技術のさらなる向上を図ります。
- 2 主催 公益財団法人 かがわ健康福祉機構 研修部
- 3 受講対象者 認知症介護（予防）に従事する方、その他受講を希望する方
- 4 定員 72名
(新型コロナウイルス感染症対策として定員を制限しております。受講決定は先着順としますので、予めご了承ください。)
- 5 日程・内容 11月26日(金) 内容は裏面日程表の通り
- 6 会場 香川県社会福祉総合センター 7階大会議室
*当センター駐車場の駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
*会場は、室温調整が十分できないこともありますので、衣服等で調整できるように準備してください。
- 7 受講費用 受講料：5,000円(当日受付)
- 8 申込方法 11月10日(水)までに、別紙申込書により、FAX若しくは郵送又は下記研修部ホームページのオンライン申込みにてお申込みください。

○申込書の様式(word)は、下記ホームページに掲載しています。

公益財団法人かがわ健康福祉機構 研修部
〒760-0017 高松市番町1丁目10番35号 香川県社会福祉総合センター内
TEL: (087)835-3807 FAX: (087)835-4777
ホームページ: <http://www.kagawa-swc.or.jp/home/kensyu2021/index.htm>

※定員を超えた場合は、受付を終了し、先着順で受講決定します。受講をお断りする方にはご連絡いたします。連絡のない方は、受講可とさせていただきます。(決定通知発送なし)

9 その他

※動きやすい服装で参加してください。

※申込書に記載された氏名等の個人情報については、受付名簿作成等研修の運営に必要な目的にのみ利用させていただきます。

※参加申込後に出欠の変更がある場合は必ずご連絡ください。

※昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大の状況によっては、開催を中止すること等がございますので、予めご承知おきいただきますようお願いいたします。

***** 研修に参加される際のお願い *****

○朝、検温・体調確認を行い、37.5度以上や体調不良の場合は、研修部へ連絡のうえ、参加を自粛してください。

○研修時は、必ずマスクを着用してください。

○消毒液を会場前に設置しておりますので、受付前に必ずお使いください。

○休憩時間には、こまめに手洗い・うがいなどをお願いします。

令和3年度 認知症予防 研修会日程

会場：香川県社会福祉総合センター 7階 大会議室

月日	時 間	研 修 内 容	講 師 等
11 月 26 日 (金)	9:30～9:50	受 付	かがわ健康福祉機構 研修部
	9:50～10:00	開講・オリエンテーション	
	10:00～12:00	認知行動療法で相手の行動編法を支援 －健康行動を育むためのコツとは－	鳥取大学大学院 医学系研究科 教授 竹田 伸也
	12:00～13:00	昼 食 ・ 休 憩	
	13:00～16:30	スリーAの認知症予防研修会 －概略－ ①スリーAの認知症予防とは ②認知症のスピリチュアルケア (優しさのシャワーで寄り添う) ③認知症予防ゲーム (実技を含む)	脳活性化訓練施設 (高齢者 リフレッシュセンター) スリーA 所長 増田 未知子
	16:30～16:45	アンケート・閉講	かがわ健康福祉機構 研修部

〔講師紹介〕

竹田 伸也(たけだ しんや) (医学博士、臨床心理士)

鳥取生協病院、広島国際大学心理科学部講師を経て、現職。

日本老年精神医学会評議員、日本認知症予防学会評議員を務める。著書に、「対人援助職に効くストレスマネジメント」(中央法規)、「クラスで使える！ストレスマネジメント授業プログラム」、『心のメッセージを変えて気持ちの温度計を上げよう』(遠見書房)、「心理学者に聞く みんなが笑顔になる認知症の話 - 正しい知識から予防・対応まで」(遠見書房)、「対人援助職に効く認知行動療法ワークショップ - 専門職としての力量を高める3つのチカラ」(中央法規) など。
(香川県丸亀市出身)

増田 未知子(ますだ まちこ)

「認知症の進行を食い止め、悪化を先送りしましょう。優しさのシャワーで心を癒し、脳を刺激して認知症の世界からカムバックさせましょう。」がスローガン。浜松医療センターの金子満雄先生と共に脳リハビリを主とした治療に携わる。平成4年「高齢者リフレッシュセンター・スリーA」を立ち上げ所長となり、平成9年静岡新聞社社会功労賞を受賞。予防デイサービス折り梅施設長(静岡市)。著書に「ボケからのカムバック」(静岡新聞社刊) など。